



視点

「労働組合としての社会貢献」

北海道コカ・コーラボトリング全労働組合中央執行委員長 佐々木 誠

北海道コカ・コーラボトリング全労働組合は、昭和57年7月19日に設立され、本年25周年を迎えることになりました。この25年間は、各方面の方々に支えられながら、成長・発展を成し遂げることが出来、感謝の念で一杯でございます。ありがとうございました。

そのような中、独自の活動を展開し「グループ保険」「遺族年金型グループ保険」「個人積立年金」等の福利厚生面充実や、「新組研修 洞爺湖一周」「林間学校」「地区レクリエーション」等のイベントを開催するなど、組合員へのサポートを着実に一つひとつ積み上げてきました。

昨今、CSR=Corporate Social Responsibility 「収益を上げ、税金を納める」という企業の責任概念が、大きく拡大しています。

「ガバナンスの徹底」「誠実な顧客対応」「環境への配慮」など、企業への要請が一層強まっています。

私はこの言葉を聞いた時、「労働組合の社会的責任」とは何か？と考え、即座に浮かんだのが、平成11年（1999年）より始めている「100円未満基金」の活動でした。「労働組合の社会的責任」は、「企業」「組合員」「社会」「組織」などの切り口により考えられると思いますが、今回は「社会」に対しての活動を紹介したいと思います。

先の通り、平成11年より始めた「100円未満基金」は、組合員個々人の給与総支給額の100円未満を募金する活動です。組織内アンケートでは、社会貢献・ボランティア活動の

大切さは多くの理解を示していましたが、いざ参加となると意識と行動との違いに大きな差を感じさせる回答でありました。そこで、社会貢献・ボランティアの意識を大切にしながら、結果として社会貢献出来る仕組みはないかと考えたのが、総支給額の100円未満をチェックオフし、1年に一度、北海道地域の施設等へ必要とされるものを寄贈する仕組みです。

寄贈の考え方は、北海道を基盤にした会社・組合なので北海道限定で取り組み、寄贈先は組合員・役員を中心に情報収集し機関として決定した先で、先方が必要としている物品を情報提供していただき、お金ではなく「寄贈品」を贈呈する仕組みです。北海道コカ・コーラ社の社名・ロゴ・組織名は使用せず、あくまで社会人の集団として「社会貢献」する活動として位置づけております。

今まで7団体・19施設に寄贈しており、「犬用車椅子」「弱視眼鏡」「はまなす車椅子マラソン大会用キャップ」「ギター」「自転車」「パソコン」等、数多くの寄贈品により多くの方々に喜んでいただきました。これからもこの活動を充実させていくのと同時に、環境や地域密着等を新たな視点として加え、自らの手で活動できるように永続的に進めて行きたいと考えています。最後になりますが、今、私たちが出来る精一杯の活動を、背伸びすることなく着実に進めていくことが、労働組合のあらゆる面での責任であると考えています。